

令和8年8月4日
北九州市教育委員会

報道機関 各位

令和8年度 全国学力・学習状況調査 北九州市結果速報

～「読書習慣の定着」と「ICT利活用の日常化」がもたらす新たな可能性～

文部科学省から、本年度の「全国学力・学習状況調査」における北九州市の結果が公表されましたので、別紙のとおりお知らせします。

【ポイント】

● 読書習慣の飛躍的改善

小学・中学ともに「全くしない」児童生徒の割合が大幅に減少し、本に親しむ文化が着実に定着。

● ICT教育環境の活用の改善

タブレット等の週3回以上利用率が小中ともに急上昇し、個別最適な学びへの移行が加速。

● 記述式・思考力問題の確かな手応え

小学校国語の記述式改善（昨年度比+0.9pt）や、中学校数学の「数と式」の著しい伸び（昨年度比+2.3pt）など、主体的・対話的な学びの成果が顕在化。

【トピックス詳細：データから見える北九州の子供たちの新たな取組み】

1. 「読書離れ」への挑戦！読書習慣の定着度が大幅向上

児童生徒質問調査において、学校の授業時間外に「全く読書をしない」と回答した割合が、小学校で昨年度比-12.5pt、中学校で-14.7ptと大幅に減少しました。北九州市が推進してきた学校図書館の活用や読書活動推進プロジェクトが実を結び、子どもたちが日常的に本を開く豊かな習慣が根付いています。

2. GIGAスクール構想の本格稼働！ICT利活用の日常化

「小学5年生（中学1、2年生）までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用したか」という調査で、「週3回以上使用した」と回答した割合が小学校で+4.8pt、中学校で+8.7ptと大幅に向上しました。授業におけるデジタルツールの日常的な活用が進み、新しい学習形態が定着していることが示されています。

3. 思考力・表現力を問う記述式問題で確かな成長

教科に関する調査では、小学校国語の記述式問題が昨年度比+0.9ptと改善。また中学校数学では「数と式」が同+2.3pt、「関数」が同+0.9pt、「思考・判断・表現」が同+0.4ptと向上しました。「脱・暗記重視」を目指す中で、自分の言葉で表現する力や論理的に考える力が着実に育まれています。

【今後の展望：AI 学習アプリ「Qubena」等による伴走支援の強化】

北九州市教育委員会では、今回の調査結果を踏まえ、更なる学力向上と個別最適な学びの実現に向けた次のステップを進めてまいります。

● AI 型学習アプリ「Qubena」の積極活用

一人ひとりの習熟度やペースに応じた個別最適な学びを推進し、学習習慣の確立と基礎学力の定着を図ります。

また、学習ログの見方や指導への活かし方を伝えるため、学校への訪問や相談対応など、現場に寄り添ったきめ細やかな支援を行います。

● 授業改善の深化

「主体別・対話的で深い学び」の実現を目指し、生成 AI パイロット校事業などを通じた先進的な授業改革・研修を市全体で強力に推進します。

【教育長コメント】

子どもたちは毎日確実に進化しています。

読書に親しむ習慣や ICT を使いこなす新しい学びのスタイルが定着し始め、記述式の問題や思考力を問う問題でも確かな成果が現れています。

AI 型学習アプリによる「オーダーメイドの学び」を通じ、子どもたちが「自律的な学習者」として成長できるよう、北九州市の教育をさらにアップデートし、一人ひとりの可能性を全力で応援していきます。

【問合せ先】

教育委員会 総務企画部

担当：（総務企画部長）栗原

TEL：093-582-2352